三島小理科レポート

2015年　No,421
四国中央市立三島小学校
田中正史

970　6年　Aさん、Bさん「気分で味が変わる？」11月26日　聞き取り

昼休み、４年生の実験準備をしていたらＡさんとＢさんがやってきました。Ａさんは「ブラックバスの釣り方」のレポートを持って来ました。これは専門的過ぎるのでパスです。

「Ａさんがいるなら、寿司ネタはないのかな？」と注文をつけたら、二人でレポートのネタを話し合い出しました。でも、一向に話が進まないので、途中から介入しました。

Ａ「うちのお店に常連さんがおるんよ。それがな、１日目これこれ食べて、２日目は別の食べて、３日目、また別の寿司食べるけどな。次の日は最初の寿司に戻って、くり返すんよ。」

Ｂ「ふーん。」

Ａ「何でくり返すんだろ？」

Ｂ「なんでだろ？」

Ａ「悲しいとか、楽しいとかの気分によって、味覚が変わってネタを変えている。気分によって味覚って変わるのかな？」

㚘「気分によって味覚は変わるだろうけど、それが理由ではないよ。」

Ａ「だったら、なんでくり返すんだろう？」

㚘「毎日同じ物食べたらあきるだろ？毎日、カレーだったらどう？」

Ａ「それは嫌だな・・・。」

㚘「今日はビーフカレー、次の日はポークカレー、次の日はチキンカレー。次の日はキーマカレーだったら嫌だろ？」

Ａ「それならいいです。」

Ｂ「なんだ、あきんのか！」（私も同感です。）

Ａ「ほとんど毎日来て、パターンを繰りかえすのが不思議なんです。」

㚘「毎日？だったら栄養がかたよらないように、３日間で食べるネタを決めているんだよ。」

Ａ「そうかなぁ？」

本人に聞かないと解決はしません。この間、Ｂさんは会話を記録する努力をしていました。

★　野山で毎日、食べる物を探して暮らしていた時代は、食べることができる物は何でも食べていました。生きるために何でも食べた。そうして栄養のバランスがとれていました。今はお金さえあれば好きな物を好きなだけ食べることができます。栄養がかたよります。「考えて食べる」ことをしないと健康でいられない時代です。カレー好きでも、同じカレーをずっとはいやですね。体が足りない栄養を求めているからではないでしょうか。